第3051圖

まつたけ科

べにてんぐたけ

一名　あかはへとりたけ

Amanita muscaria (*L.*) *Fr.*

秋季、山地ニ多ク、深山ニテハ夏季ニモ發生ス。蓋ノ表皮ハ鮮美ナル紅色又ハ橙黃色ヲ呈シ、白色砂粒狀ナル疣點ヲ其上ニ散布ス。褶・莖共ニ純白色ナリ。莖ニ膜狀ノ白キ鍔ヲ有ス。莖ノ下端ハ槍ノ石突ノ如ク膨大ナリ。性猛毒ナリ。蓋ノ色ガ似タル爲ニ食菌たまごたけト誤認シ、喰ツテ中毒スルモノアリ。

第3052圖

まつたけ科

てんぐたけ

一名　はへとりたけ

Amanita pantherina (*DC.*) *Fr.*

秋季、山野ニ普通ニシテ、唐傘狀ヲ成セル大形ナル褶菌ノ一ナリ。蓋ハ褐色ニシテ、稍白キ疣點砂粒ノ如ク散在シテ、表皮上ニ附着セリ。故ニ豹紋ニ因ミテ學名ニ豹ノ義アリ。褶ハ常ニ純白、莖ニ離生ス。莖ハ白色、中間ニ膜狀ノ白キ鍔ヲ具フ。莖ノ下端ハ槍ノ石突ノ如ク膨大ナリ。廣ク世ニ知ラレタル毒菌ナリ。

第3053圖

まつたけ科

たまごてんぐたけ

Amanita phalloides (*Vaill.*) *Fr.*

秋季、山野ニ生ジ、全體ノ色白ク、只蓋ノ中央部少シク闇綠又ハ褐色ヲ呈スルコトアルノミナリ。莖ノ下端水仙ノ球ノ如ク膨レ、必ズ之ヲ包ム脚苞アリ。莖ノ中部ニ膜狀ノ鍔ヲ具フ。蓋ノ表面ハ滑カニシテ時ニ脚苞ノ破片ヲ附着スルコトアレドモ、てんぐたけニ見ルガ如キ砂粒狀ノ疣點ヲ有スルコトナシ。本菌ハ毒菌中ノ最猛毒菌ニシテ、中毒症狀ハこれら病ニ似タリ。中毒者ハ死亡スル場合多キ猛毒ノモノナレバ注意シテ誤食スベカラズ。莖ノ下端著シク膨大ニシテ、脚苞ヲ有スルコトト、莖ニ鍔ヲ有シ褶ノ白色ナルハ、本菌ノ特徵ナリ。

たまごたけ

Amanita caesarea *Pers.*

夏秋ノ候、山野ニ生ズ。蓋ノ表皮橙黃色又ハ紅色ニシテ美シキ褶菌ナリ。蓋ノ色同屬ノべにてんぐたけニ似タルヲ以テ誤認セラレ易キモ、褶・莖・鍔ハ同屬菌中、本菌ニ限リテ常ニ黃色ナレバ、此特徵ニ注意スレバ決シテ混同スルコトナシ。本菌ノ脚苞ハ白キ袋狀ヲ成シ、莖ト密着セズ。菌蕾ハすっぽんたけ類ノモノニ類シ、鳥卵狀ニシテ且ツ中ニ黃色ノ部分ヲ有スル菌體ヲ藏スルヲ以テ、たまごたけノ名アリ。食用ニ供セラル。

第3054圖

まつたけ科

からかさたけ

一名　にぎりたけ・つるたけ

Lepiota procera (*Scop.*) *Quel.*

晩夏ヨリ秋季ニ亙リ山野ニ生ズ。蓋ハ徑10–15cm、上皮ハ褐色、分裂シテ蓋上ニ斑紋ノ如ク散在シテ附着ス。褶ハ幅廣ク、莖ヨリ全ク分離シ、蓋ノ十分開キタルモノニ在リテハ褶ト莖トノ間ニ間隔アリ。莖ハ細長ク、往々45cm以上ニ達スルモノアリ、眞直ニシテ中空、其下部ハ膨大ナリ。鍔ハ二層ヨリ成リ、頗ル丈夫ニシテ往々莖ヨリ環狀ニ遊離シ、上下ニ動カシ得ルコトアリ。故ニ之ヲ可動性鍔ト云フ。茸ノ全形唐傘ニ似タリ、依テ此名アリ。蓋・莖共ニ質綿細工ノ感觸アリテ、掌中ニ握ルニ彈性アリ。故ニにぎりたけノ名アリ。つるたけハ別屬ノ菌ナレドモ、本菌ヲモ千葉縣・茨城縣等ニテハつるたけト稱セリ。食用ニ供ス。

第3055圖

まつたけ科

まつたけ

Armillaria Matsudake *Ito et Imai*

秋季、赤松林ニ多ク發生ス。又栂林ニモ生ズ。時トシテ夏季ニモ發生シ、是ヲ俗ニさまつト云フ。別種ニ同名ノさまつナルモノアリ。蓋ハ初メ半球狀ニシテ、次第ニ開キ突圓形トナリ、終ニ扁平ニ展開ス。褶ハ終マデ白色ナリ。蓋ノ十分開カザル間ハ下面ニ綿毛狀ナル蓋膜アリ。蓋膜ハ後破レテ一部ハ不明瞭ナル鍔トナリテ莖ニ存シ、一部ハ蓋ノ周緣ニ附着シテ殘ル。味ノ美ナルト、芳香ヲ有スルトニヨリ、本邦人ノ最モ好ムモノナリ。

第3056圖

まつたけ科